



お手玉は笑顔を生みだす魔法の力

おてたま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO.

32

2013年12月



訪問先でお手玉を渡す



元気だった、覚えているよ！そして、また来てね。何気ない、この言葉がこころをうつ。

■新居浜から南三陸「気仙沼」に向けての
出発式（右下写真）



お手玉たのしいね



全国から寄せられたお手玉が
東北に笑顔の輪、心の絆を結ぶ

東北特集
届けたお手玉2万個
各支部が現地で交流
被災地に咲いた『笑顔の輪』
東北特集・感想文

ロサンゼルスから被災地へ
●お手玉で築く被災地との「絆」
川口市の福祉法人に託したお手玉を
東北の被災地に届けて笑顔を変えた
第2回東北被災地南三陸を訪ねてお手玉交流
元気だった、覚えているよ！
岐阜県美濃加茂支部設立10周年記念大会開催
三世交代交流お手玉」に重点を置き取り組む。
鹿児島お手玉の会設立10周年の記念事業を開催
講演会・講習会や記念誌の発行
信州おしなごの会が10周年記念行事
「絆」テーマに伊那谷道中がぶちやん村で
平成25年度文化庁文化連進を活かした地域活性化事業
伝統文化お手玉教室
宮中会長を招き八王子支部で講演会
守るべきは手紙遊びの文化を園児の参加
かわつそお手玉の会が15回目の開催
尾道お手玉フレンドが9回目の大会を開く
第3回お手玉遊び和歌山大会
会員の融和と情報共有。会報紙を手作りで発行！
毎月会報紙を発行
「お手玉と健康を鍼灸師の立場から解説
【川西健康お手玉の会】
宮崎おてたま通信で会員の融和を図る
支部の行事や地域とのかわりを紹介【宮崎お手玉の会】
手書きまで温か味のある
『おてたま』
【福岡お手玉の会】
市の広報誌「かがみかほろ」の表紙を彩る。
各務原お手玉の会、みなさんの笑顔が輝く、活動の証。
小学生から給手紙のお礼状
同好の輪井成康さんに届く
新居浜市で『一般高齢者介護予防教室』
●愛媛県生涯学習センター「Lカレッジ」の
世代を超えて仲良く「お手玉で遊ぼう」
陽だまりの会（愛媛県松山市）が本部を訪問
お手玉の魅力を伝える10周年を迎える「尼崎お手玉の会」
第27回全国レクリエーション大会・福岡大会
『ぞわら健康まつり』『ひやお手玉遊び
福岡お手玉の会が「ササエだ」を披露
岡山おてたまや美術館のお手玉遊び
拍手喝采を浴びた高崎お手玉の会
読み聞かせの講師も来て、お手玉遊びが輝き浴びる
『おてたま』を『おてたま』に
新居浜支部が「お手玉遊び」を披露

東北特集

届けたお手玉2万個

各支部が現地で交流

被災地に咲いた『お手玉の輪』『笑顔の輪』
「わっ！楽しい！」「待ってたよ」「また来てね」の声に支えられ

日本のお手玉の会では、「東北のみなさんの心と健康を守るために、少しでもお役に立てば…」と、懸命にお手玉を手づくりして東北に届けています。その数は全部で2万個を超えました。また、支部ごとに被災地を訪問し、現地でお手玉交流をするなど、お手玉の輪・笑顔の輪を広げています。

その励みになっているのが、東北のみなさんの笑顔であり、「わっ！お手玉って楽しい！」「待ってたよ！」「また来てね」の言葉です。

今回は、『東北特集』として、お手玉を作ってくださいました会員のみなさんの声や、現地を訪問したみなさんの様子をご報告します。



■忘れられない物語の防災対策庁舎



■本部のある新居浜から気仙沼へ



■東京お手玉の会が被災地でお手玉を渡しているところ

中、南三陸でお手玉交流ができたことは大変有意義だった。交流会では、かわうそお手玉の会(高知県須崎市)のみなさんが作られたお手玉をプレゼントしました。

葛西 文子

●訪れた南三陸で買い物をしたすべての品に、「ご支援ありがとうございます」と感謝の気持ちを込めて作りました」と名前入りのメッセージがついていた。手漉き作業をされていた「東京お手玉の会」の文字と玉ちゃん顔が入った手作りのしおりを、プレゼントしていただいた。

浜里 悦子

●ジョークを言って笑わせてくれた女性や高齢者の方たち、いつまでも手を振って見送ってくださいました仮設住宅のみなさん。手漉き作業をされていた人たち。絵を描いて見せてくれた若い女性たち。みなさんに「また来ますね」と約束できなかったことが、心残り。

水野 晴子

●「私どもの住む九十九里町は、3.11の震災で、地震による大きな揺れと、思いもよらない液状化現象に見舞われ、避難所での生活を余儀なくされました。そんな時、老人の集まりで心を和ませてくれたのが、お送りいただいたお手玉でした。心から感謝しています。」との礼状が届いた。 本部署事務局



■現地でお手玉を配布



■出発前の記念撮影

【新居浜支部の会員】

●これまでに6回、気仙沼を中心に被災地を訪問して炊き出しのボランティアをしている。お手玉を持参すると、色鮮やかなお手玉を手にとって懐かしむ大人。コミュニケーションゲームなど、思い思いの遊び方ではしゃぐ子どもたち。お手玉のおかげで場の雰囲気ながこみ、上手下手は関係なく、心の絆を結び、楽しく交流できている。

永易 英寿(新居浜市議会議員)

ロサンゼルスから被災地へ



■ロサンゼルス在住 東繁春さん 日本のお手玉の会新居浜支部の顧問 日本文化を英語で紹介する 新聞を発行



■カルチュラル・ニュースに東北の現状を記事として



お手玉の魔法がこの笑顔を生む

東北特集・感想文

お手玉がつくり出す笑顔の輪 現地を見て話を聞くだけでも

【東京支部のみなさん】

●バスで南三陸に向かう。車窓からは大型重機や工用トラックが行き交う様子が見える。楽しい語らいがあったであろう多くの家の跡は、背丈ほどの雑草が生い茂っている。秋桜が風にゆれていた。

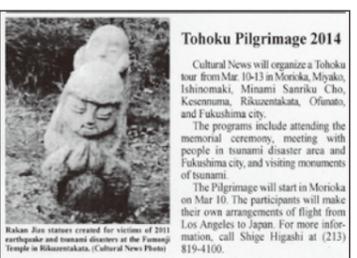
柴田 綾子

●来年また機会があつて、仲間と一緒にに行けたらいいなと思っている。出来る時にできることを、気長に続けたい。それが「私たちが忘れないでください」の声に伝えることだと思えるから。

中山 順子

●仮設住宅で会ったツイードのスイツ姿のダンディーな男性。「もう物をもらっても心はぬくもらんのだよ」と言われ、返事に詰まる。別れぎわ「お元気でね」と言わないでくれよ。もう会えないような気がするから」と、ティッシュで涙をぬぐう姿が忘れられない。

尾崎 杏子



Tohoku Pilgrimage 2014 Cultural News will organize a Tohoku tour from Mar. 10-13 in Morioka, Miyako, Ishinomaki, Minami Sanriku Cho, Kesennuma, Rikuzentakata, Ominato, and Fukushima city. The programs include attending the memorial ceremony, meeting with people in tsunami disaster area and Fukushima city, and visiting monuments of tsunami. The Pilgrimage will start in Morioka on Mar. 10. The participants will make their own arrangements of flight from Los Angeles to Japan. For more information, call Shige Hgashi at (213) 819-4100. ■東 繁春さんはロサンゼルスから東北を6回訪問しており来年3月には7回目の訪問を計画している。その記事の一部と陸前高田市内の地蔵

●1000年に一度といわれる大津波の被害は、映像で何度も、何度も伝えられています。実際に現地に行ってみないとわからないことがたくさんあります。ボランティアをするわけでもなく、ただ被災地に行くだけでいいのだから、と心配される方がたくさんいらっしゃると思います。

私は、これまで3年間で6回、ロサンゼルスから被災地を訪れています。何もできなくても、まず現地を見ることが、現地の人から体験談を聞くことが、被災者にとって励みになっていくことがわかりました。

被災地への支援を始めるにも、まず、現地に行つて様子を聞くこと、そして、被災地の人が必要としていることを、直接、知ることになることが、本当に役立つことなのです。日本のお手玉の会のお手玉を、気仙沼市のサンテール曹洞宗ボランティアセンターにお届けしたのも、望まれていることだったのです。

東 繁春 (カルチュラル・ニュース社編集発行人)

●第2回南三陸お手玉交流会へ仲間入りさせてもらった。施設訪問の先々で、温かい心ふれあうお手玉遊びが展開され、笑い声や笑顔・お手玉の花がたくさん咲き、実践のすばらしさを学ぶことができた。

今野 雅子

●それぞれの仮設で、お世話をされている方々。若い神社の柵宜(ねぎ)さん。ミシンの講習を受けて工房を設立した方など。東北女性のたくましさに拍手を送りたい。

松本 順子

●高齢の方々が、お手玉をする姿は、幼児に戻ったかのように感じた。ほんとうに楽しんでくださったと思つた。たくさん笑つて、体を動かして、終わるころには、体も気持ちもほっかぽっかになった。

佐藤ひろみ

●被災当時の様子や、宮城大学・南三陸復興ステーションの取り組みを聞いた。現地の様子。一変してしまつた大地。家族、生命、そして仮設住宅の生活など。現実をこの目で見た。被災地はまだ復興途上だ。

尾櫃 恵美

●被災地を訪れることに戸惑いもありましたが、現地に赴きその有様を目にすると、改めて津波の恐ろしさを実感した。被災の記憶も薄れゆ



■南三陸の子どもたち

【埼玉県川口市の社会福祉法人 めだかすとりいむのみなさん】

●お手玉を無事、南三陸の子どもたちに届けてきました。どの場所でも、子どもたちはお手玉で遊んで、笑顔になりました。この笑顔をお手玉を作ってくださいました日本のお手玉の会のみなさんに、しっかりと伝えなければと心から思いました。子どもたちの心が豊かになるお手玉、ほんとうにありがとうございました。



●お手玉で築く被災地との「絆」 各支部がそれぞれ現地を訪問

東北特集・支部・個人の訪問記録

【札幌お手玉同好会は本部を通じて】
札幌お手玉の会では、大震災の様子をテレビで見るとともに心が痛み、お手玉で心を癒してもらおうと700個作った。支援物資の受付窓口で相談したが、「お手玉は支援物資に該当しない」と断られた。

【かわつそお手玉の会が1千個】
かわつそお手玉の会(高知県須崎市)と国際ソロプチミスト須崎が協力して、一針一針に思いを込めて、1,000個のお手玉を作り、福島県内のお手玉愛好家を通じて、被災地の希望者に届けた。そのことが『朝日新聞』『高知新聞』で紹介された。
(平成23年5月)

【飯館村の保育所から礼状が届く】
福島県飯館村のやまゆり保育所の仲井田多美子所長から、福島の斎藤朋子会員を通じてお手玉を寄贈したことへのお礼状が、本部に届いた。「保育所の子どもたちは0歳から2歳まで、お手玉は上手にできませんが、

手に触れ、箱に投げ入れるなど楽しく遊んでいます。震災と原発で施設を移転し、慣れない施設での生活ですが、お手玉に癒されています」と綴られていた。
(平成23年9月)

【本部から福島の斎藤朋子さんに】
かわつそお手玉の会(高知県)の200個、松山市の会員からの94個のお手玉と、東京の虫本あき子会員から届いたタオルで作った防災リュックや紐付き袋40枚と、お手玉184個を、福島の斎藤朋子会員宛に送った。斎藤さんから、「タオルのリュックや袋は、避難所で重宝した」とのお礼の返信があった。
(平成23年7月)

【全国の会員が手作りのお手玉を贈る】
「築こう被災地との絆」を合言葉に、日本のお手玉の会の12の支部と会員、そして人形作家の上妻悦子さんなど個人や団体から、手作りしたお手玉3,421個が、本部に届いた。これらのお手玉を、会員からの「祈りを込めて作りました」「お手玉遊びで元気に過ごしてください」などのカードを添えて、被災地の仮設住宅や老人福祉施設、仮設の小学校、保育所などに送った。そのことが『愛媛新聞』に掲載された。
(平成23年10月)

川口市の福祉法人に託したお手玉を東北の被災地に届けて笑顔に変えた

埼玉県川口市の社会福祉法人「めだかすとりいむ」が、東北の被災地支援として「手作りおもちゃを東北の子どもたちへ」という活動に、日本のお手玉の会のみなさんが作ってくださったお手玉を提供しました。これは、日本のお手玉の会の本部がある新居浜市で、日ごろお世話になっている、おもちゃ図書館しやポツポの松山明子代表(日本のお手玉の会新居浜支部世話人)の紹介で、お手玉を託したものです。

めだかすとりいむでは、東北支援のため平成25年10月25日(金)と26日(土)に、いわき・南三陸に出かけました。

1日目は、福島県いわき市の聖テモテ幼稚園、小名浜白百合幼稚園、清風幼稚園を、2日目は、宮城県南三陸町の南三陸ボランティアセンター、南三陸さんさん商店街、入谷公民館いそひよおもちゃ図書館を訪ねられました。

訪問された4人から被災地の子さんたちが、手作りおもちゃやお手玉に触れ、笑顔で遊ぶたたくさんの写真とレポートが、日本のお手玉の会に届きました。

レポートには、次のような言葉が綴られています。「お手玉を、無事に届けてきまし



■手作りおもちゃに子どもたちの笑顔でしゃく様子に希望の光をみることができた



■小名浜白百合幼稚園



■清風幼稚園

た。どの場所でも、子どもたちはお手玉で遊んで、笑顔になりました。子どもたちの心が豊かになるお手玉、ほんとうにありがたうございました。「外で遊ぶことのできない子どもたちは、手作りのおもちゃや、お手玉を持って、満面の笑顔を見せてくれました。この笑顔をおもちゃやお手玉を作ってくださいました。しっかりと伝えなければと、心から思いました。」

「実際に現地を訪れ、直接お話を伺うということが、メディアから受け取る情報にはない、今の現状を知る一番正確な情報だと感じました。」

【神戸長田お手玉の会に松島から礼状】
神戸長田お手玉の会に、宮城県の松島町長から、「たくさんのお手玉を賜り心よりお礼申し上げます。みなさんの協力や支援、励ましの言葉は、災害の被害や風評被害に負けずに頑張ろうという勇気が湧いてきます」。長田支部が、お手玉に演舞「斎太郎節」のVTRを添えてプレゼントしたお礼だった。
(平成24年3月)

【鹿児島お手玉の会が釜石を訪問】
鹿児島お手玉の会では、被災された方々にどうかして「お手玉のぬくもりと楽しさ」をお届けしたい。自らの身をその地において、震災の状況を知り、自らの心で被災地の方々と繋がりたい。この念願で、会として岩手県釜石市を訪ねた。

訪問にあたって、会員手作りのお手玉1,000個を届けたあと、釜石市の仮設住宅・昭和園、大松地区集会所の2か所を訪問し、「お手玉を楽しまひ会in釜石」を実施した。そのことは、『南日本新聞』で紹介された。
(平成24年10月)

【岩内お手玉の会が石巻の学校に】
岩内お手玉の会は、190個のお手玉を岩手県の学校や避難所の7か所に届けた。「子どもたちは、お手玉を操り笑顔で楽しんだ」と、『北海道新聞』が伝えた。
(平成23年4月)

第2回東北被災地南三陸を訪ねお手玉交流

●元気だった、覚えてるよ！

東京お手玉の会は、5月につづいて10月23日、24日の両日、会員5人と友人3人の8人で、東北被災地の南三陸復興支援活動として、お手玉交流に出かけました。

前回は、入谷ひがし幼稚園・水戸部仮設住宅・戸倉仮設住宅集会所・平成の森仮設住宅・のぞみ福祉作業所を訪ねました。そのとき、「また来てくださいな」「待っていますよ」と話され、硬い握手を交わして5か月がたちました。

「寒くなる前にもう一度、南三陸のみなさんにお会いしたい」ということで、宮城大学南三陸復興支援センターの鈴木先生の支援を受けて、2回目のお手玉交流を実施しました。

メンバー8人は、2つのグループに分かれて、志津川中学校仮設住宅集会所・高校仮設住宅集会所・特別養護老人ホーム慈恵園・山の神平仮設住宅集会所の4か所を訪問しました。

交流場所でのお手玉遊びは、笑顔が見られ、みなさんとても楽しんでくれたが、じっくり話すことができなかつたことが残念でした。

5月に訪ねた仮設住宅や福祉作業所では「元気だった?」と逆に声を

【尼崎のお手玉の会も気仙沼を訪問】
尼崎のお手玉の会では、カラフルな忍者の衣装を身に付けて、10人が宮城県気仙沼市の鹿折小学校仮設住宅を訪問。現地のみなさんと一緒にお手玉遊びを楽しむとともに、お手玉演舞を披露した。
(平成25年11月)



【東京お手玉の会は二度の東北訪問】
東京のお手玉の会は、新年会で被災地支援活動を審議し、参加者を募り、世話人を選び、支部としての材料費や交通費の援助なども決めた。世話人は、事前に南三陸に向き5か所の訪問先を選んで出かけた。

会員が協力してお手玉や手提げ袋などを作った。それらを携えて、5月は6人、10月は8人で、それぞれ2日間ずつ南三陸を訪ねた。

1回目は6か所、2回目は8か所を訪ね、温かい心を伝えるとともに、元気で笑顔で絆を深めた。
(平成25年5月、10月)

かけられたり、幼稚園では子どもたちから「覚えてるよ!」と笑顔で話してくれたりしました。

仮設住宅のミシン工房では、元の仕事に復帰する人もいました。戸倉仮設住宅では、おしゃべりに花が咲き、笑いがいっぱいでした。最後にみんなでお手玉送りをして再会を喜び合いました。外の景色は5か月前とほとんど変わりがなく、復興のむずかしさを感じました。

今回、みんなが持ち寄ったお手玉は1,000個で、交流会を持ったところは8か所でした。

お世話いただいた鈴木先生が、訪問後に次のようなメールをくださいました。「お手玉の魅力だけではなく、みなさんの接し方が受け入れられたのだと思います。これをご縁に何度でもおいでいただくとありがたいです。」

あせらず、謙虚に、被災地のみなさんの気持ちに寄り添って、今後もお手玉の交流をつづけていけたらと願っています。



岐阜県美濃加茂支部設立10周年記念大会開催

「三世交代交流お手玉」に重点を置き取り組む

5組の家族チームの出演が感動を呼ぶ

美濃加茂お手玉の会では、設立10周年を記念して、平成25年8月31日(土)、「なつかしい文化から」新しい出会いを「」をテーマに、第10回市民お手玉遊び美濃加茂大会を、同市総合福祉会館ふれあいホールで開催しました。市の内外から350人が参加し、和やかな雰囲気の中で、団体戦と個人戦に熱戦を繰り広げました。

大会では、「三世交代交流お手玉」に重点を置いて取り組みましたが、5組の家族チームが出演しました。この時世と家族形態の中で、祖父母、親、子とつながる家庭はほんの一握りしかないだけに、これらの家族の参加は、感動を呼びました。もちろん、血のつながりのない世代でもよいという設定も加えました。

美濃加茂お手玉の会では、毎年、夏休みに市内外の学童保育にでかけ、お手玉遊びの指導を行っています。これは15回こなしました。どこの学童保育もとても熱心で、片手3個ゆりや両手4個ゆりなどは、子どもたち自身でマスターしました。

そんな子や孫の熱意に大人も動かされ、大会では多くの協力を得て、アトラクションとしての両手4個ゆりや三世交代交流お手玉披露には、会場



第10回大会のポスター

から温かい喝さいを呼びました。

また、片手3個ゆり、両手4個ゆりを披露したかなり多くの小学生の技の見事さに、会場から感嘆の溜息と、大きな拍手が送られました。

美濃加茂お手玉の会は、10年という区切りを超えましたので、来年からどのような再出発をするかを、これから煮詰めていくこととなります。

両手4個ゆりを披露した多くの小学生の見事さに会場から感嘆の溜息と大きな拍手が送られた。



2013年9月4日(水) 岐阜新聞の記事で大会を紹介される。

信州おしなごの会が10周年記念行事

「絆」テーマに伊那谷道中かぶちゃん村で

信州おしなごの会は、設立10周年の記念行事を、平成25年9月18日(水)、飯田市箱川の伊那谷道中かぶちゃん村で行い、会員22人が参加しました。

まず、篠田敬子会長から10年間を振り返った経過報告があった後、会員それぞれの活動について感想を発表し、これからの取り組みを話し合いました。

支部と付き合いの深い、ちよんかけごまの桃太郎名人からの祝電披露もありました。

記念の行事として地元の伝統工芸に触れようと、専門家の指導と草木染めのマフラーづくりと、水引細工の鶴亀編みに挑戦しました。

午後からは、投げ玉遊びの新しい技を練習しました。お手玉1個での手の平返しや、2個使った手の平返しなどを体験しました。

また、両手4個ゆりに、手の平返しや、握り直しなどの技を加えた高度なゆり方の紹介があったり、全員で寄せ玉遊びを練習したりしました。

また、それぞれに2個のお手玉を持つて輪になり、「あんたがたどこそこ」を歌いながらのお手玉回しは、失敗しては笑い、上手にできると笑顔がはじ

け、たいへん盛り上がりしました。

最後に、篠田会長から会員一人ひとりに感謝状が手渡されました。また、会員からは篠田会長に、長年にわたる会員への指導と、「おしなごおばさん」としてお手玉遊びを全国に広めた功績をたたえて『感謝の言葉』を贈りました。



かぶちゃん村役場の「申学門」



水引しゃもじ福ストラップ



設立10周年記念行事会場 伊那谷道中かぶちゃん村の入口「長屋門」

鹿児島お手玉の会設立10周年の記念事業を開催

講演会・講習会や記念誌の発行

鹿児島お手玉の会では、設立10周年を記念して平成25年8月31日(土)、9月1日(日)の両日、記念事業を開催しました。台風15号の接近で開催が心配されましたが、種子島からの参加者は船の欠航を心配、3日前から鹿児島島に入るなどの配慮があり、記念事業は予定どおり行なわれました。

9月1日は、「健康お手玉」講演会と実技の集いが、始良市の始良市加音ホールで行なわれ、鹿児島お手玉の会の会員をはじめ和歌山、長野、広島、宮崎、熊本などからの参加も含め180人が集いました。

午前中は、山本清洋鹿児島お手玉の会会長の挨拶、日本のお手玉の会武田信之理事の挨拶につづいて、ヘルスアートクリニクくまもと院長の中原和彦医学博士(日本のお手玉の会顧問)の「心と身体を癒すお手玉の効果」の講演がありました。

中原博士は、お手玉をゆりながらお手玉が脳の活性化に果たす効果や、心と身体の健康の増進をもたらす効用を、ユーモアを交えながら話をされ、参加者は笑顔で聞き入っていました。

午後の実技の研修は、鹿児島お手玉の会会長で鹿児島大学名誉教授の山本清洋教育学博士(日本のお手玉の会副会長)の「上手くなるための



お手玉」、鹿児島お手玉の会副会長の宮迫恵子さんの「誰でもできるお手玉遊び」、鹿児島お手玉の会理事長の西田恵子さんの「脳を活性化させるお手玉遊び」の3つの分野に分かれて行なわれました。

どの会場も笑顔があふれ、楽しみながら研修がすすめられました。参加者も、「有意義な講習会でした。きょう体験したことを実際の場面で生かしたい」と話していました。

前日の8月31日は、「お手玉ゆって和、笑、輪」豊かなお手玉の世界を目指す懇談の夕べ」が、鹿児島市のホテル吹上荘で行なわれ、会員ら50人が参加しました。出席者は鹿児島お手玉の会の10年の歩みを振り返りながら、グループごとに歌や舞踊、ちよんかけごまなどの出し物を披露し、和やかなひとときを過ごしました。

また、鹿児島のお手玉の会10年の歩みをまとめた記念誌「新しいお手玉の世界」(日本のお手玉の会副会長・山本清洋編著・南方新社)の出版披露も行なわれました。

平成25年度文化庁文化遺産を活かした地域活性化事業

伝統文化お手玉教室

「脳活・笑活・健康に導くお手玉」のテーマで

宮中会長を招き八王子支部で講演会

八王子支部では、初めての試みとしてお手玉の講演会を、9月29日(日)に、八王子市の八王子労働会館で開催しました。講師には、日本のお手玉の会の宮中雲子会長をお招きして、「脳活・笑活 健康に導くお手玉」のテーマでお話をいただきました。

この講演会には、八王子市民や会員だけでなく近郊から、また、長野県松本市や東京から日本のお手玉の会の会員の方々など、68地域から200人の参加がありました。

まず、八王子お手玉の会の会員による演舞が始まりました。つづいて、東京杉並区、北海道、八王子に伝わる「おさらい」(寄せ玉遊び)の歌と仕草を紹介しました。また、八王子の子どもたちが日ごろ練習してきたお手玉の技を披露しましたが、その見事さに会場から、「お〜!」という歓声が上がりました。

宮中会長の講演では、「歌いながらのお手玉で、心も体もさらに元気に」…との優しいお話には、お人柄がにじみ出ていて、会場は和やかな雰囲気



宮中雲子会長の講演

すさきお手玉遊び大会で園児ら参加 かわうそお手玉の会が15回目の開催

高知須崎

かわうそお手玉の会(高知県須崎市)は、平成25年2月24日、第15回すさきお手玉遊び大会を市民文化会館で開催しました。大会には、園児、小学生、一般(高齢者を含む)を合わせて110人の市民が参加しました。この大会は、「お手玉遊びを通じて、地域の人たちとの交流を深め、異年齢交流による自主性や協調性を育もう」をテーマに開催しました。

開会に当たり、今回も、楠瀬耕作須崎市長からご挨拶をいただき、かわい園児のみなさんのお披露目で幕を開けました。つづいて、参加者全員でお手玉を練習し、それぞれの競技に移りました。

この大会には、須崎市市議会議員チームの参加があり、大いに盛り上がりました。また、お手玉の技術も、回を追うごとに上達していて、子どもたちも、大人も、なかなか勝負がつかない場面が見られ、大会は大いに盛り上がりました。

お手玉遊び大会については、須崎市の3月度の定例会見でも取り上げられ、広く市民に紹介されました。



園児・小学生のお手玉遊び大会風景

尾道お手玉フレンド

180人が参加してお手玉遊び大会

尾道お手玉フレンドが9回目の大会を開く。尾道市推進協議会との共同主催で、平成25年1月20日(日)、尾道市総合福祉センターで、第9回お手玉遊び尾道大会を開催しました。大会には、一般の部に37チーム、小学生の部に8チームなど、180人が参加して盛大に開催しました。

開会式では、優勝トロフィーの返還、小学生による選手宣誓につづいて、参加者全員で「元氣いきいき」のお手玉体操で体をほぐしました。



個人戦の斉競技開始(右上)

団体戦競技の対戦相手と交流の挨拶(左上)

各コートにわかれての団体戦競技(左下)

お手玉競技は、個人戦の一般の部が、両手3個ゆり、片手2個ゆり、両手投げ3個ゆり(ジャグリング)の3種目、小学生の部は、片手2個ゆりと、両手2個ゆりを低学年の部と高学年の部に分けて行いました。また、アトラクションとして「タンポポ団」のお手玉演舞や、けん玉尾道支部の演技の披露で、大会の雰囲気盛りあげました。大会は、午前9時から正午まででしたが、参加者が真剣な中にも笑顔絶やせず、日ごろの練習の成果を発揮して、楽しい雰囲気の中で終わりました。



幼児の部に感動の笑顔が



大会参加で個人戦の表彰を受ける

和歌山のお手玉の会

第3回
お手玉遊び和歌山大会
大人と子ども140人が参加
幼児の部を設け園児らが参加

和歌山のお手玉の会では、7月27日(土)、第3回お手玉遊び和歌山大会を、和歌山市の河北コミュニティセンターで開催しました。大会には、県外の奈良、京都、大阪、香川などからの24人を含む、大人100人と子ども40人の140人が参加しました。競技は、個人戦と団体戦で行われ、個人戦では、珍しく幼児の部が設けられ、両手2個ゆり、両手ひとつゆりに保育所の園児たちが挑戦し、会場から大きな拍手で健闘が称えられました。

各支部で「会報」「たより」「通信」「通信」を手作りで発行!

会員相互の融和・親睦・意思疎通の向上に



『わかやま新報』で紹介される



お手玉は未来の希望となる



お手玉を使って健康運動

【川西健康お手玉の会】 毎月会報紙を発行

「お手玉と健康」を 鍼灸師の立場から解説

川西健康お手玉の会(兵庫県川西市)は、平成25年3月に誕生した、最も新しい支部ですが、設立以来、毎月、会報を発行しています。会長は、西山鍼灸治療院の西山浩一院長で、支部の事務所を院内に置き、会報の編集発行を西山会長自身が行っています。

「川西健康お手玉の会会報」は、A4一枚の両面カラー印刷です。内容は、お手玉遊びの歴史、効用、作り方、遊び方、競技種目、段位認定などが、シリーズで紹介されています。

とくに目に付いたのは、中原和彦医学博士(日本のお手玉の会顧問)の「うつ病治療に『お手玉』 脳のバランスを整える(熊本日日新聞)の新聞記事でした。お手玉遊びの効果が、わかりやすく述べられています。

また、西山会長が、手の平の「ツボ」を図解して解説している「お手玉で手の平を刺激しよう!!」は、専門の立場から全身への効果をわかりやすく紹介しています。そのほか、毎号のコラムで、「ツボ」



川西健康お手玉の会の第1回お手玉の練習会に参加したみなさん

会報には、毎号、「ツボ」のコラムがありお手玉との関係などが紹介されている



川西健康お手玉の会の会報紙

とお手玉の関係が解説されていて、興味深い内容の会報です。図解が多くて、読みやすく、わかりやすい会報です。

12月1日から、毎月第1日曜日に、地域の公民館でお手玉練習会を開く案内や、会員募集も掲載されています。

【宮崎お手玉の会】 宮崎おてだま通信で 会員の融和を図る

支部の行事や地域とのかかわりを紹介。宮崎お手玉の会は、結成から6年を経過しました。会では、年数回、会報「宮崎おてだま通信」(A4版5頁、カラー印刷)を発行し、支部の行事や地域とのつながりを紹介しながら、会員相互の研修、融和、親睦を図っています。

弘田和子会長は、「頭のポケット、アイデアのポケットを増やしましょう」を提唱し、みんなでアイデアを生み出しながら、日々の活動に取り組んでいます。その様子が、会報に表現されています。

最近号では、市民プラザで開いた地域イベントに役立つ「遊び塾」の内容や、大塚小学校の運動場で開催した、スーパースポーツの空き箱を利用した「ナンバゲーム」などが紹介されています。

また、小松台小学校では、どんぐりを詰めたヨーヨーお手玉を作り、子どもたちと楽しく遊んだことや、市の中央公園での親子お手玉のキャッチボール、お手玉積み遊びなどで楽しんだ様子を掲載しています。どの行事にも、アイデアがいっぱい

『いちれつらんぱん』

あるデイサービスで、80歳過ぎの人が20人余りいた。お手玉の上手な人や、まったくできない人もいたが、お手玉回しやお手玉交換を楽しんだ。が、一人だけ無口で退屈そうな87歳の女性がいた。

その女性。古いお手玉歌が聞こえてくると、『いちれつらんぱん』を歌い始め、最後の「東郷大將ばんばんざい」まで、よどみなく歌い切った。

周りから拍手が起った。女性は満足げな表情で、何度もリクエストに応えていた。



■カラー写真を多く取り入れ読みやすい「おてだま通信」

手書きで温か味のある ふくたまたより

カラー写真を添えた 福岡お手玉の会

福岡お手玉の会では、手書きで温かい味のある会報『ふくたまたより』を発行しています。大きさはB4版で、カラー写真も添えてコピーした、楽しい編集の会報です。

支部総会での役員改選の内容や、活動方針の紹介をはじめ、学童保育所、児童館などでの小学生のみなさんや先生との、楽しいお手玉交流の様子が掲載されています。

小学生から絵手紙のお礼状 宮崎の稲井成恵さんに届く たのしかったよ

宮崎お手玉の会の会員・稲井成恵さんに、このほど、大淀小学校の1年生全員から、心のこもった絵手紙のお礼状が届きました。

稲井さんは、おじゃみ(お手玉)を使って、小学校の放課後子ども教室の指導など、地域でボランティア活動をしています。また、毎年秋には、秘密の場所にお弁当を抱えて出かけ、何十キロものじゅず玉を収穫して、運動会用の玉入れのおじゃみを作っています。

そして今年も、大淀小学校の1年生に100個のおじゃみをプレゼントし、そのお礼に絵手紙のお礼状が届いたということです。小学生たちは、玉入れのある運動会を楽しみにしているそうです。



【題】『100個のおじゃみが届いたよ』
たのしいおじゃみを送ってくださりありがとうございました。きれいなおじゃみも送ってくださりありがとうございました。かみです。たのしいおじゃみを送ってくださりありがとうございました。
おてだま通信 1ねんきんみ かわのぼるか

紹介されています。紙面には、随所にカラーのイラストが配置されていて、見て楽しくなる演出も工夫されています。何といつても、手書きであることが、紙面の柔らかさや、やさしさ、温かさを醸し出しています。



■手書きで親しみのある会報紙「ふくたまたより」

お知らせ

各支部では、会員相互の融和・親睦・意思疎通を図るとともに、自己研修・相互研修・地域貢献などを目的に、それぞれ「〇〇会報」「〇〇だより」「△△通信」などの名称で、ミニコミ紙を発行しています。

いずれも興味深い内容で、他の支部でも採用できる情報が掲載されています。各支部が発行している会報紙を、編集部までお寄せください。

会報「おてだまや「たまちゃん通信」で紹介させていただき、会員のみなさんの相互啓発にお役立ていただきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

日本のお手玉の会本部 編集部

新居浜市で 「一般高齢者介護予防教室」

■新居浜支部の会員が6か月間「お手玉」を指導
■16人の会員が4チームに分かれて担当

新居浜市は、地域包括支援センターの平成25年度の事業として、平成25年10月から平成26年3月にかけて、「一般高齢者介護予防教室」を開講しました。これは、高齢者が元気に暮らすことにより「地域を豊かにする」とのねらいで、認知症予防、食事と口腔ケア、口腔機能向上、運動機能向上、地域活動の紹介などの講座を設け、市内4地区で、それぞれ対象者一人に対して3カ月間、12回実施される計画です。

教室では、毎回、開講時にウォーミングアップとしてお手玉体操を行うことになっていて、日本のお手玉の会新居浜支部に講師の依頼がありました。支部では、16人の会員が4チームに分かれて担当しています。

この企画は、新居浜市の公募に対して、社会福祉法人すいよう会(渡辺由美子理事長・日本のお手玉の会新居浜支部理事)が提出した提案が採用されたものです。講座は、『心が動けば体が動く！』をテーマにしたカリキュラムが組まれていて、お手玉のほかに笑いヨガなど、『笑顔』を生み出す企画が盛り込まれています。

「信州おしなごの会」 「おしなご」のタイトルで情報紙を発行



■お辞儀の仕方なども写真入りで

「信州おしなごの会」では、「おしなご」のタイトルでB4版・カラー印刷の情報紙を発行しています。「おしなご」は、長野県飯田地方の方言で「お手玉」のことです。

お手玉をはじめめる前の「ごあいさつ」、東洋医学の手足のツボ・呼吸法などにそった「準備運動」、そして寄せ玉、投げ玉の遊び方が紹介されています。

また、西行法師がお手玉遊びを詠まれた短歌「石なごの たまの落ちくるほどなきに 過ぐる月日は かはりやはする」も掲載されています。ちなみに題字の「おしなご」は、百歳の前島忠夫医学博士の揮毫によるものです。



■高齢者介護予防教室で「お手玉」の講座風景

「お手玉を通して広がる第二の絆」

ぬくもりを届けたい手から心への真実
都筑幸美さん越谷市の広報誌で紹介される



日本のお手玉の会の会員の都筑幸美さん(信州おしなごの会)が、越谷市の広報誌のコラム「絆」で、「お手玉を通して広がる第2弾の絆」として紹介されました。

ここに、その内容をご紹介します。

「都筑幸美(つづくよしみさん)(68)は、平成23年4月に松本市から越谷

市の広報誌「かがみはら」の表紙を彩る 各務原お手玉の会みなさんの笑顔が輝く、活動の証

各務原お手玉の会のみなさん14人が、笑顔で同市の広報誌「かがみはら」の2013年新年号の表紙を飾りました。

各務原市は、ことし市制施行50周年を迎え、広報誌もその記念の事業を紹介しています。

そんな時期に、各務原お手玉の会を、「市制施行50周年各務原お手玉の会」のタイトルで、次のように紹介されています。

「伝統的な遊び「お手玉」を通して、学校や福祉施設での交流活動を行う「お手玉の会」の皆さん。脳が活性化するというお手玉のパワーで、各務原市を元気に盛り上げます。」

14人の会員のみなさんは、それぞれ手にお手玉を持って、笑顔で写真に収まり、みなさんの前には100個のお手玉で、『おて玉のかい』の文字が描かれています。



■各務原市の広報誌の表紙で活動を紹介します

に引越してきた。

2カ月後の6月には、越谷市の広報誌で見つけた手品サークルに入った。松本で子どもや高齢者にお手玉を教えていた経験を活かしたいと、越谷市社会福祉協議会に相談し、7月から毎週木曜日に水辺のまちづくり館で行う「親子のふれあいひろば」のボランティアに参加。現在では、南越谷地区センターの「放課後教室」でもお手玉を教え、松本での地域活動も続けている。

本格的にお手玉を始めたのは60歳から。腕前はかなりのもので「日本のお手玉の会」の認定段位も持っている。

何事も前向きに考えるプラス思考がモットー。『越谷でも、お手玉遊びで、子どもたちや若いお母さんと遊べる。こんなラッキーなことはない』。お手玉を広めたいという気持ちが出会いを生み、越谷レイクタウンふるさとプロジェクトにも参加。新しい人間関係がさらに広がった。

『お手玉は、人と人とのふれあいを助けてくれる魔法のアイテム。大勢の方にお手玉を広めていきたい』と都筑さんは語る。

都筑さんは、「私のお手玉の原点は、信州おしなごの会の篠田敬子会長はじめ会員のみなさんとの出会いです。そして、日本のお手玉の会の大会や講習会への参加や情報提供で、勉強させていただいています。」と話しています。

世代を超えて仲良く『お手玉で遊ぼう』『カラレツジの』

●愛媛県生涯学習センター「1」カラレツジの

愛媛県生涯学習センターの講座として『お手玉で遊ぼう』が企画され、平成25年12月1日(日)、松山市の同センター研修室で行われ、小学生から83歳の女性まで、世代を超えた人たちが参加しました。

講師は、日本のお手玉の会理事の武田信之さん(同センター推進講師)が担当しました。

講座は、お手玉遊びの4千年の歴史や、今もなお世界中で遊ばれていること、脳の活性化、心と体の健康に役立つことから、いま医療、教育、介護など広い分野で注目されている話からはじまりました。その説明に、受講者は驚きの表情で、真剣に聞き入っていました。

また、1個でできる遊び、2個でできる遊びに入ると、みなさん笑顔で、笑いが絶えませんでした。「あんたがたどこさ」のコミュニケーションゲームに入ると、小学生もおばあちゃんと一緒に楽しく、教室に笑い声と歓声が溢れました。

講習を終わって、みなさん笑顔で感想を話してくれました。

「お手玉遊びが、こんなに楽しいものだと思っていなかった(40代の女性)」

「昔は、4個ゆりが得意だったが、いまは3個ゆりもつづかなくて悔しい思いをしていたが、これならできる。老人会でみなさんと楽しめるし、孫たちと一緒に遊ぶことができる(80代の女性)」



1個でできる遊び、2個でできる遊びの指導「あんたがたどこさ」の歌に合わせ



年齢を超えて一緒に



笑顔の絶えない講座に人気

陽だまりの会(愛媛県松山市)が本部を訪問 プラチナガーデンで『お手玉遊び』を体験

『お手玉』はできないと思っていた。『よいもの』に出会った。

松山市北条地区の高齢者で組織する「ふれあいいきいきサロン」のグループ、陽だまりの会のメンバー21人が、12月11日(水)、日本のお手玉の会本部を訪ねてくれました。

本部では、武田信之理事が対応し、新居浜市内の社会福祉法人はびねす福祉会の福祉施設プラチナガーデン(長野文彦理事長・日本のお手玉の会副会長)に展示させていただいている日本と世界のお手玉を説明し、同施設内のホールで『お手玉遊び』普及活動の内容や、『お手玉遊び』の効用などについて話しました。

また、1個、2個のお手玉でできる遊びや、一人で、二人で、たくさんの人とできるコミュニケーションゲームなどを体験してもらいました。

『お手玉遊び』の体験では、終始和やかに、また、笑顔で歓声を上げながら、童心に返って取り組んでいました。

「お手玉遊びは、4千年も前からあつて、いまも続いていることに驚いた。人間が生きていく上で大切なものだからこそ残っているのだから、大切にしたい。」



ふれあいいきいきサロン「陽だまりの会」のみなさん(松山市北条地区)

『よいもの』お手玉のお求めは
販売元・熊本支部
TEL096124212276

よいものお手玉はリハビリに最適です。熊本支部へお問い合わせください。

楽(あそ)び 歓喜(よろこ)び 咲(わら)う

第67回全国レクリエーション大会・福岡大会



NPO法人福岡県レクリエーション協会 専務理事・大会実行委員会 事務局長 佐藤靖典さんが基調提案(日本のお手玉の会顧問)

第67回全国レクリエーション大会・福岡大会が、楽(あそ)び 歓喜(よろこ)び 咲(わら)うをスローガンに、平成25年10月25日から、27日の3日間、47都道府県と、中国、韓国からの参加者も含めて約1万2千人が参加して、福岡市の福岡国際会議場を中心に開催されました。

この大会に、日本のお手玉の会の役員の方々が各部門に登場しました。

研究フォーラムでは、鹿児島大学名誉教授で伝承遊びを育てる会会長の山本清洋さん(日本のお手玉の会副会長)が、「みんなで伝承遊びを復権させよう」伝承遊びの意義を認識し、子ども社会に定着化する方法を探す」のテーマで、討論しました。

(このニュースについては、佐藤靖典顧問から情報をご提供いただきました。)

【尼崎のお手玉の会】
尼崎のお手玉の会会長 池辺美保子
尼崎のお手玉の会では、結成10周年を迎え、お手玉遊びの普及を目指すとともに、老人施設を慰問したり、小学校で子どもたちと一緒に遊んだり、ボランティア活動に力を注いでいます。

尼崎市内の5つの小学校の放課後クラブを定期的に回り、お手玉遊びを指導したり、小学校の保護者から招かれて、児童と母親と一緒にお手玉遊びを体験してもらっています。保護者からは、「親子が仲良く会話し、笑い合うことができる」と好評を得ています。

老人施設の慰問では、「両手を使うから脳の活性化になり、認知症の方や体の不自由な方も参加できる」と歓迎されています。

こうした活動が、11月15日の『読売新聞』で「お手玉 魅力伝え10年」のタイトルで紹介されました。



小学校の放課後クラブで『お手玉指導』「輪になって子どもたちとお手玉遊び」

ある高齢者のお手玉教室でのこと。熱心に話を聞いている女性がいいた。が、お手玉を持ったまま、ゆるゆるとはされな。ところが、ヨーヨーお手玉を女性の指に入れてあげようとして分かった。リウマチで指が固まっていたのだ。ヨーヨーお手玉を持つと、つき始め、「これなら私もできる」と、がぜん表情が明るくなり、お手玉遊びの輪に加わった。

「もうお手玉はできないかと思っていた。これは楽しい。いいものに出会った。孫と一緒に遊ぶことができる。ありがとございました。」

感激の瞬間だった。



佐藤靖典さんの基調提案の資料



第67回全国レクリエーション大会・福岡大会の様子を記録

『さわら健康まつり』『サザエさん』でお手玉遊び

福岡お手玉の会が「サザエさん」を披露

福岡お手玉の会では、保健所の依頼により、平成25年10月3日、福岡市早良区保健所で行われた「さわら健康まつり」に参加しました。

まつり会場には、日ごろから健康に関心のあるお年寄りや、若い女性、お子さんなどがたくさん詰めかけ、一日中にぎわいました。

「お手玉は初めてはい！」と中年男性がお手玉を手をにされ、ゆり方の説明を熱心に聞かれ、両手2個ゆりができるようになり、「やったあー」と大きな歓声をあげていました。若い女性2人も、5分程度で2個ゆりができるようになりました。幼児2人と若いママには、コミュニケーション遊びをしてもらいました。

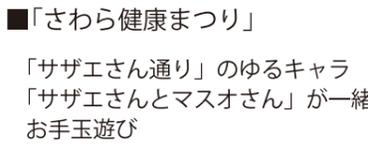
高齢の女性たちは、「昔はようやうたね。懐かしかねえ」と言いながら、笑顔で見事な両手3個ゆりをやって見せてくれました。「お手玉をする」と脳の活性化につながる」と話すと、みなさんはすっきり、お手玉のとりこになりました。

「ヨーヨーお手玉」には、みなさん「珍しいね」「初めて見たよ」と、大好評でした。

この地区には、「サザエさん通り」があるので、会場にゆるキャラの「サザエさん」と「マスオさん」が登場し、元気をもらいました。



1個で遊べるお手玉ゲーム



「さわら健康まつり」
「サザエさん通り」のゆるキャラ
「サザエさんとマスオさん」が一緒にお手玉遊び

そして、玄関ホールでお手玉演舞「サザエさん」(福玉会制作)を踊りました。会場のみなさんから温かい拍手をいただき、お手玉の花が咲きま

新春お手玉遊び初め大会

福岡お手玉の会では、1月5日(日)に恒例の「第12回新春お手玉遊び初め大会」を、福岡市中央児童会館で開催します。みなさんのご参加をお待ちしています。

東京おもちゃ美術館でお手玉遊び

拍手喝采を浴びた宮崎お手玉の会

宮崎お手玉の会の会員2名は、平成25年10月18日から20日まで、東京四ツ谷の東京おもちゃ美術館の小学校を利用して行われた「東京おもちゃまつり」に参加しました。

「伝承おもちゃコーナー」には、もちろんお手玉が展示されていて、子どもたちは自由に遊ぶことができました。指導はおもちゃ学芸員です。その方が、不思議な2個ゆりを教えてくれました。

「あなたがたどこさ」の「さ」で、1個が上の時、もう1個のお手玉を背中を通して左手に渡します。そしてまた2個ゆりを続けるのです。両手が後ろにくるくると動いて、忙しい2個ゆりですが、面白かったです。

また、私たち2人と学芸員が輪になって、「あなたがたどこさ」で2個ゆりをしながら、「さ」のところで左隣にお手玉を渡します。この遊びは、いつもお手玉の会で遊んでいるのですぐにできて、学芸員は驚かれました。

それを見ていた外国の子どもたちが、手をたたきながらアンコールと声をかけ、写真も撮っていました。うれしくなって、何度もお手玉をゆりま

し。学芸員に、お礼にと鹿児島お手玉の会10周年記念大会で、尾道お手玉の会の師範代に習った「手の平返し2



東京「四ツ谷」の東京おもちゃ美術館で

新春お手玉遊びのついで

宮崎お手玉の会では、「新春お手玉遊びのついで」を、1月25日(土)に、宮崎市の市民プラザでおこないます。午前中は総会、午後はお手玉遊びとおりがみ遊びを予定しています。ご参加ください。

読み聞かせの講習会でも、お手玉遊びが脚光浴びる

退職後、生涯現役であるために、お手玉遊びの伝承と絵本と紙芝居の読み聞かせをすることを決めて、進んできました。

昨年の4月から、NPO法人「絵本で子育て」センターが実施している「絵本講座」を受講しています。昨年で10期を迎え、会場は兵庫県芦屋市で行われています。

3回目の講座「絵本講座について」では、テキストの「子どもの現状」の文章の中に、日本のお手玉の会の顧問をされている森昭雄先生の「ゲーム脳の恐怖」について、紹介されています。

5回目の講師のお一人が、川崎医科大学小児科名誉教授の片岡直樹先生でした。片岡先生は、「2歳まではテレビを見せてはいけない」という主張をされています。

テレビに子守をさせているのは、赤ちゃんに言葉の遅い子ができることがあるので、手先を使う遊びや外遊びを、推奨されています。

また、親子が向き合って絵本の読み聞かせをしてあげて、想像力や言葉の獲得やイメージを膨らませる経験をもっと持たせて欲しい...という内容でした。

パワーポイントで説明してくださったのですが、最後にお手玉をしている時に前頭前野が活発に働いている、という内容のお話でした。

絵本の読み聞かせで、子どもたちを教育していくという内容の講座で、お手玉遊びのよさを紹介してくださり、とてもうれしかったです。

すぐ、片岡先生に、「私、お手玉の普及活動をしています」とお話ししたのですが、次の講習が始まりましたので、席を立つことができなくてとても残念でした。

でも、私の班の方々は、「森さんのしているお手玉のこを取り上げてくださって、よかったね。」と、喜んでくれました。その方には、最初の受講で自己紹介をした時に、お手玉をプレゼントしていたのです。

センターの代表の二人の先生にもお手玉をプレゼントしていたので、帰りに、「お手玉がよいと言ってくれましたね」と、笑顔で話しかけてくれました。

片岡先生の著書を数冊買ってきたのですが、後日、よく見てみると『テレビを消したら 赤ちゃんがしゃべった! 笑った!』(メタモル出版)という本の表紙に、森昭雄先生の

「推薦のことば」が載っていたので、びっくりしました。

つながっているのですね。お手玉の輪が広がっていることには、うれしく思いました。

後日談になりますが、諦めきれずに片岡先生の事務所をホームページで調べ、電話でお礼を言うことができました。また、先生からは、いろいろお教

近畿ブロック長
和歌山のお手玉の会会長
森 勝代

【片岡直樹先生の著書】

『テレビを消したら 赤ちゃんがしゃべった! 笑った!』、『テレビ・ビデオが子どもの心を破壊している!』、『しゃべらない子どもたち 笑わない子どもたち 遊べない子どもたち』(共著) (以上メタモル出版)



新居浜支部が

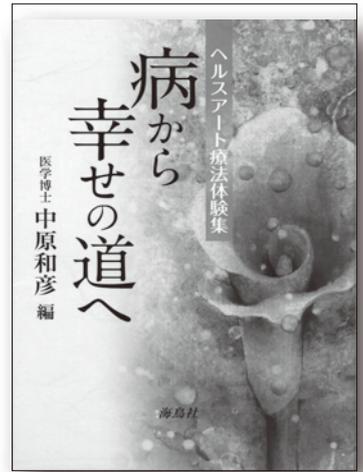
「お手玉遊びと子育て」講演会

新居浜支部は、「子育てのコツ」の著書で遊びの伝承師として知られる岩城敏之様(宇治市・新居浜支部顧問)を招いて、10月27日(日)、イオンモール新居浜で、「お手玉遊びと子育て」をテーマに講演会を開きました。

「みんなで育む未来の人材」つなげよう愛情の連鎖」と題した講演に、子育て中の若いお母さん、保育園や幼稚園の保育士や先生、お手玉の会の会員や市民など80人が参加しました。

「ネットゲームで日本より一歩前を行く中国や韓国で、その弊害としてネットゲーム中毒が大きな社会問題になっている。日本でもそうならないよう、ゲームの使用時間を親と子で話しあったり、家族や友人と一緒に楽しめるゲームに切り替えるなどの対策が必要。日本には、昔から優秀な人材がいて、日本の国を素晴らしい国に築きあげた。そこには、『よく聞く、よく見る、よく真似る』伝統があった。これからも、日本のよき伝統を、愛情の連鎖で次世代につないで、よい人材を育てていこう。」と、ユーモアあふれた語り口で、呼びかけました。





『病から幸せの道へ』

医学博士・中原和彦編著

中原和彦医学博士(日本のお手玉の会顧問)は、このほど、ヘルスアート療法体験集を編纂し、『病から幸せの道へ』として海鳥社から出版しました。

この本は、中原博士の治療を受けて病を克服した人たち19人の体験をまとめたものです。また、中原博士が取り組むヘルスアート医療についての解説や、それぞれの体験には、病状ごとに「医師からのアドバイス」が添えられています。そして、中原博士考案の呼吸法や、ヨーヨーお手玉を使った治療などが、紹介されています。



『新しいお手玉の世界』

教育学博士・山本清洋編著

山本清洋教育学博士(日本のお手玉の会副会長、鹿児島お手玉の会会長)は、このほど、鹿児島お手玉の会の10周年を記念して、『新しいお手玉の世界』(お手玉ゆつて和笑輪(わわわ))を編集発行し、南方新社から出版されました。

絵で見るお手玉の和・笑・輪、お手玉で遊ぼう、お手玉の世界に生きる人々、お手玉楽しむってどんなこと、お手玉をこよなく愛する人々の和・笑・輪、鹿児島お手玉の会の10年の歩みと現状の6章にまとめられています。

静かなブームが始まっている
第1章〜第6章までの
「新しいお手玉の世界」
●お金もいらず脳を活性化。
手軽な健康づくりに注目が集まっている。

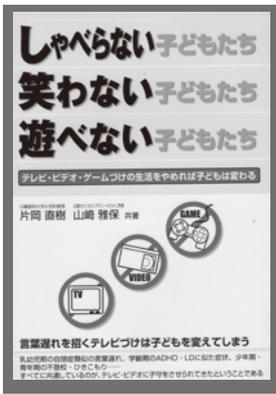
発行所・南方新社◎定価(本体1500円+税)

お手玉は脳の活性化に役立つ 片岡直樹先生が言葉遅れの子に警鐘

川崎医科大学名誉教授の片岡直樹先生(Kids 21子育て研究所所長)は、「お手玉遊びが前頭前野の活発な活動をもたらし、脳に良い影響を与える」と、小学生から高齢者までにお手玉遊びを推奨しています。

片岡先生は、小児科のお医者さんで、多くの事例から「音と光が言葉遅れの子をつくる」と訴えています。そして、「少なくとも2歳までは、テレビやビデオを見せてはいけない」と警鐘を鳴らしています。その裏付けを豊富な事例で紹介されているのが、次の図書です。子育て中の方も、子育てが終わった方も読んでみてください。

「テレビを消したら赤ちゃんがしゃべった!笑った!」「テレビ・ビデオが子どもの心を破壊している」「しゃべらない・笑わない・遊べない」(いずれもメタモル出版)



この一冊あれば
お手玉のことが
ほとんど解ります。



(1冊) 1500円 送料別

●お申し込みは
日本のお手玉の会

この冊子は、日本のお手玉の会の設立20周年の記念にあたり、新居浜市が編纂した『お手玉』の資料をご提供いただき、それを基盤に、日本のお手玉の会の新しい情報を加え、全国各支部のご協力をいただいで編集を行い、『お手玉』を完成させました。

これまでの活動の歴史を振り返るとともに、伝承文化としてのお手玉遊びの継承、発展と「心豊かなまちづくり」活動の新时代を切り拓くための、参考資料としてご利用ください。

【発行・編集】

日本のお手玉の会

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号 銅夢にいほ内



TEL: 0897-32-0302 FAX: 0897-32-0311
URL: <http://www.otedama.jp>
E-mail: honbu@otedama.jp